

路傍の根性花

2022.1 島田祥生

ここ数年、朝の散歩コースで気になった草花を撮りためてきました。

擁壁の隙間を伝ったり、沢山のタネをまき散らしたりして版図を広げている。種が発芽して、根が水分のある所にたどり着くまでは雨が必要。際どいこと、この上ないと思いませんか。



スミレ

3月、春を告げている。コンクリートの割れ目に根を張って、秋口までタネを飛ばし続ける。



ヒオウギ

5月の縁石の隙間を彩る球根の多年草。でも、種をたくさんつけて勢力の拡大を図っている。



ツユクサ

この青がいい。石段のわずかな土に踏ん張っている。メガネツユクサの群れに肩身が狭そうに居候。



5月

オキシペタラムブルースター

と言う、舌を噛みそうな園芸種。幹が木化していて、毎年花を咲かせる。さやの中に、沢山の丸いタネを作る。



5月

フタナ

タンポポの仲間らしいがひどい名前。外来種としてあっという間に各地に広がったからかな。



5月

ハルジオン

アメリカ原産の帰化植物だそうです。空き地を作るとものすごい勢いで生えてくる。



ゼフィランサス

園芸種の多年草で、これは花びらの先がちょっと紫。種は薄っぺらくて、風に乗って広がりそう。駐車場の角の、アスファルトが足りなかったところにしっかり株を広げている。



8月

芙蓉 (ピンク)

擁壁の隙間に根を張り、擁壁が浮き上がっている。この後伐採されてしまった。



8月

芙蓉 (白)

縁石とブロックの間にしっかりと根を張っている。こちらは大切にされている様子。



8月

タカサゴユリ

台湾原産で園芸種として持ってきたが、大量のタネをまき散らして、自生し、商売にはならなかったとのこと。



初雪草

8月に咲くのに、なぜこの名前？ 園芸種の1年草は、どこからタネが転がってきたのか。



アカマンマ

(イヌタデ) 畑の縁や畔では、人に踏まれて小さくなっているけど、ここではのびのび。



8月

矢車草

秋口から苗を育てて、春になったら移植するほど、丁寧に育てる花のはずが、何とコンクリートの隙間で立派な花を。
この家の庭には、矢車草が毎年見事に咲いている。
そこからのタネだろうが、強いですね。



8月

ムラサキツユクサ

水揚げが悪くて切り花にならないし、種を見たこともない。
庭で大事に育てられるものと思っていたが・・・。



8月

カタバミ

こんなところで群生しているのは見たことがない。農家では、生命力が強い代名詞で、抜いても抜いても生えてくる。



8月

ラベンダー

富良野か、プランターで大切に育てられるもののはずが、こんなところで。



8月

ヘクソカズ

ラなんてかわいそうな名前。「どこにでも生える雑草」とか。



5月

擁壁の隙間に、それこそ根を張って。乾燥していても平気みたい。名前知りませんか。



7月

ヒメヒオウギズイセン

(姫緋扇水仙)

綺麗な名前ですね。ファンも多いのでは。
全国的に、日当たりのよい道路沿いや人家周辺に野生化している。
南アフリカ原産だそうです。



万両

おめでたい名前です。一、十、百、千両もあります。冬のエサ不足の時に鳥が食べに来ますが千両より後。不味いのかな。彼らが種をまき散らすらしく、いたるところに生えてきますね。



冬になると橙色になるはずが、いつまでも白。よく見る草と言うか、木化している。葉っぱからするとミカンの仲間のようなのだが。



8月

カラスウリ

日が落ちると、幻想的なレースの花びらを開く。雌雄異株で、これは雄花。ここには雄株しかなかった。



8月

ランタナ

黒い大粒の丸い種を付け、とにかくスキがあれば生えてくる。花の色はどんどん濃くなるが、薄い色の時に密を出す。蝶は、その色がわかるらしい。



8月

カナヘビクン

草むらにそそくさと逃げ込んだ。しっぽのメタリックな青色が、きれいと言うか・・・。



5～8月

ヒルガオ

お日様がカンカン照り付ける中、駐車場の縁石とのすきまに根を張って、フェンスを伝って伸びる伸びる。暑さと乾燥には相当強そう。



8月

ジュズサンゴ

アメリカ原産の園芸種だそう。当地では、1.5mほどの木になるとか。花は白くてかわいい。



5月

我が家の野ばらで、花粉を集めているクマンバチ。枯れ枝の中に並べて産んだ卵のために、花から花へ。忙しい忙しい！